

## 2. 努力目標に関するアンケート集計結果及び自己評価（教職員）

令和6年1月

	番号	項 目	全 体			各部・学年・教科内				自己評価
			①+②	③+④	⑤	①+②	③+④	⑤	中間時の①+②	
教務部		1 教務関係事業の円滑な運営								
	17	(1) 各部、学年等との連絡強化	81.6	10.2	8.2	81.8	18.2	0.0	90.0	②
	18	(2) 各種行事、会議、打合せ等の効率的・効果的な計画と運営	85.8	8.1	6.1	91.0	9.1	0.0	90.0	②
		2 学習意欲の喚起と学力の定着を図る授業の工夫改善								
	19	(1) 既習事項の学び直しを含めた、「わかりやすい授業」を実践する。	87.8	4.1	8.2	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	20	(2) ICTを活用した授業を実践し、主体的な学習態度を身につける支援をする。	89.8	6.1	4.1	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	21	(3) 探究的な学習活動に関する定期的な研修と、授業評価を実施する。	83.7	12.2	4.1	81.8	9.1	9.1	90.0	②
	22	(4) 生徒個々の実情に応じたきめ細かな指導を行う。	87.7	6.1	6.1	100.0	0.0	0.0	100.0	②
<p>1について、各部、学年等の協力を得て時間割の作成、校務支援システムの運用、ポータルサイトの活用、体験入学や定期考査の実施、成績処理などの教務関係事業を円滑に行うことができた。高校入学者選抜の業務も関係分掌の協力を得て抜かりなく進めていきたい。</p> <p>2について、ICTの活用による生徒主体の授業の展開、個別最適化された学びの研究、授業評価に関する研究など今後もさらに発展させ推進していきたい。Google・ワークスペースの研修が実施予定であり、先生方のスキルアップに繋げていきたい。</p>										
総務部		1 会員の主体的な参画により、父母と教師の会の事業を活性化する。								
	23	(1) KITAKATA WALKへの協力	91.8	2.0	6.1	83.3	0.0	16.7	100.0	①
	24	(2) 登校時、朝のあいさつ運動への協力	89.8	4.1	6.1	83.3	0.0	16.7	100.0	①
	25	(3) PTA広報紙の発行	91.9	2.0	6.1	83.3	0.0	16.7	100.0	①
	26	2 同窓会との連携を図り、会務の適正な運営を推進する。	85.7	2.0	12.2	83.3	0.0	16.7	100.0	②
	27	3 施設設備の充実に務め、適正な配置・運用を図る。	79.6	12.2	8.2	83.3	16.7	0.0	100.0	②
	28	4 学校行事を通して、PTA・同窓会・地域社会との交流の充実を図る。	87.7	2.0	10.2	83.3	0.0	16.7	100.0	②
<p>1 (1)～(3)において、多大な協力のもとに遂行することができた。2について、各支部が統合同窓会に向けて動き始めた。今後も適正な運営を目指し、連携を図っていきたい。4について、活動が評価できる一年であった。今後も事業の活性化、充実を図っていきたい。</p>										
生徒指導部		1 基本的な生活習慣の確立および規範意識の高揚								
	29	(1) 挨拶励行の推進	81.6	12.2	6.1	100.0	0.0	0.0	80.0	②
	30	(2) 高校生らしい髪型や服装の着こなし指導の推進	79.6	14.2	6.1	100.0	0.0	0.0	80.0	②
	31	(3) 品格ある生徒の育成	73.5	18.3	8.2	90.9	9.1	0.0	70.0	②
		2 安全・安心な学校づくり								
	32	(1) 問題行動の未然防止	69.4	22.5	8.2	100.0	0.0	0.0	80.0	②
	33	(2) 各種講話の充実	83.6	6.1	10.2	100.0	0.0	0.0	90.0	②
	34	(3) 教育相談の充実	85.7	8.1	6.1	100.0	0.0	0.0	90.0	②
		3 生徒会活動の充実								
	35	(1) 生徒会行事の充実と活性化	88.8	4.0	6.1	100.0	0.0	0.0	90.0	②
36	(2) 部活動の活性化	85.7	10.2	4.1	90.9	9.1	0.0	90.0	②	
37	(3) 文武両道に向けた環境整備	69.4	18.3	12.2	72.8	18.2	9.1	100.0	②	
<p>多くの先生方による日頃からの挨拶や服装、規範意識の指導の成果があり、概ね達成できた。居心地の良い雰囲気作りをしていくことが問題行動の未然防止にもつながるため、保健部と連携して、清掃活動と整理整頓の指導をしていきたい。各先生方が生徒に寄り添って相談にのったり、スクールカウンセラーに話をつなげたりし、個に応じた対応が行われている。生徒が自ら考えて行動できるようになるために、生徒会活動や部活動等で主体的に行動していく機会を増やしていきたい。文武両道を目指していく中で、忍耐力を培い成果につながることを生徒が理解し、自ら行動する環境づくり（支援）をどう構築していくかが課題である。</p>										

進路指導部	38	1 学力向上のための補習・各種学習会・模擬試験等を計画的・効果的に実施することで、基礎学力の充実を図る。	91.9	4.0	4.1	100.0	0.0	0.0	91.7	②
	39	2 進路ガイダンスや職業人講話等のキャリア教育、大学等と連携した行事により進路意識の高揚と職業観の育成に努める。	91.8	6.1	2.0	100.0	0.0	0.0	91.7	②
	40	3 各種講演会や「進路だより」「進路資料」等の配付により、適切な進路情報を提供する。	87.8	8.1	4.1	91.7	8.3	0.0	91.7	②
	年間計画に基づき補習・各種学習会・模擬試験を実施した。基礎学力の充実へ向け、生徒の実態に応じて模擬試験等の事後指導のあり方を今後検討していきたい。 希望進路に応じた進路ガイダンスや講話、模擬授業を実施することで、自らの進路について考える場を提供し、意識の高揚と職業観を育成する有意義な機会となった。事後アンケートの結果を次年度の進路行事にいかしていきたい。 「進路だより」「進路資料」の配付、学校HPの活用により、進路情報を発信することができた。									
保健部		1 心身共に健全な生徒の育成								
	41	(1) 健康に対する意識向上を目指した広報活動の推進	87.8	4.1	8.2	100.0	0.0	0.0	85.7	②
	42	(2) 職員及び生徒の各種検診による事後措置の推進	91.9	4.1	4.1	100.0	0.0	0.0	85.7	②
	43	(3) 感染症、熱中症対策の徹底	89.8	4.0	6.1	85.7	14.3	0.0	85.7	②
		2 校内環境の整備								
	44	(1) 清掃活動の徹底	87.7	6.1	6.1	85.8	14.3	0.0	71.4	②
	45	(2) 定期的な校舎安全点検の実施	89.8	4.1	6.1	85.7	14.3	0.0	71.4	②
1 各クラスの保健委員が「ほけんだより」を通じて積極的に取り組んでくれた。検診による要精検のある職員には受診の呼び掛けを行ったが、未受診の職員が見られるので年度末に期待したい。感染症、熱中症対策については、学校でやるべきことについては適切に行動できた。 2 活動について、係が中心となり積極的に取り組んだ。定期安全点検で修繕箇所が見つかった場合には、関係部署の協力もあり、スムーズに改善できた。										
図書部	46	1 読書への関心・意欲の喚起を目指した活動及び総合的な探究の充実に向けた活動を各学年、各教科等と連携して実施する。	83.7	8.1	8.2	100.0	0.0	0.0	66.7	②
	47	2 読書環境の整備を充実させていく。	83.7	6.1	10.2	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	48	3 図書選定を適切に行い、蔵書の充実を努める。	85.7	6.1	8.2	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	1 図書委員による図書館だよりの編集やおすすめの本のポップ作成などの活動により、読書活動推進に努めた。 2 閲覧室の机・椅子を新しくし、探究活動などを行いやすい環境の整備に努めた。 3 限られた予算の中で適切な選書を行い、蔵書は比較的まんべんなく利用されている。									

一 学 年	49	1 基本的な生活習慣を確立し、自律的な生活態度を身につけさせる。	61.2	8.1	30.6	90.0	10.0	0.0	100.0	②
	50	2 他者に対する思いやりを持ち、ルールやマナーを守る姿勢を身につけさせる。	57.1	10.2	32.7	70.0	30.0	0.0	100.0	②
	51	3 授業を中心とした学習習慣の確立により基礎的学力を定着させる。	59.2	8.1	32.7	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	52	4 さまざまな体験を通じ、自己の適性を捉え、進路希望に対する具体的な考えを持たせる。	63.3	6.1	30.6	100.0	0.0	0.0	100.0	③
	53	5 保護者と連携して生徒の実態を把握するよう努め、効果的な指導を協力して行う。	61.2	6.1	32.7	100.0	0.0	0.0	100.0	②
<p>入学時の緊張感がなくなり、良い意味でも悪い意味でも自分を表現できるようになってきた。中学校時代からの継続とはいえ、基本的な生活習慣の未確立から欠席がちな生徒が多く、進路変更につながってしまった生徒もいる。折を見てHRや集会等で、他者に対する思いやりの心の醸成を促してきた。年度当初に多く見られた人間関係のトラブルが減少したことで、一定の効果があったとみる。学習習慣の確立については、進路意識の向上と併せて指導してきたが、全体としては物足りない。保護者との連絡を密にしながら生徒への指導に取り組めた。</p>										
二 学 年	54	1 基本的な生活習慣を維持し、健康で規則正しい生活をさせる。	63.2	8.1	28.6	90.0	10.0	0.0	81.8	②
	55	2 授業及び家庭学習を充実させ、学力の向上を図る。	65.3	4.0	30.6	100.0	0.0	0.0	90.9	②
	56	3 職業及び勤労への意識を高め、より具体的な進路目標を設定させる。	71.4	4.0	24.5	100.0	0.0	0.0	90.9	②
	57	4 さまざまな機会をとおして、ルールやマナーを守る姿勢を身につけさせる。	65.3	6.1	28.6	100.0	0.0	0.0	90.9	②
	58	5 保護者と連携して生徒の実態を把握するよう努め、効果的な指導を協力して行う。	61.3	4.0	34.7	100.0	0.0	0.0	81.8	②
<p>1,4 一部の生徒を除けば、周囲へ配慮しながら節度ある生活が送れている。また、体調不良を訴える頻度も昨年度より減少し、健康的な生活も確立しつつある。 2 全体的に落ち着いた態度で授業に臨むことができてきた。意欲的に学習する生徒も目立ってきた。その一方で、十分な学習時間を確保し計画的に学習する習慣の定着ができず、各教科の学習に苦慮する生徒も多い。家庭学習習慣の確立がやはり大きな課題である。 3 進路指導部主催の各種進路行事やインターンシップをとおして進路意識を育むことができた。また、それぞれの進路について具体化するために主体的に学習したり行動したりする生徒も多くなった。 5 夏季休業期間の三者面談(保護者面談)を通して、各家庭との情報交換および共有を図ることができた。また、保護者とは概ね協力的で良好な関係が築けた。</p>										
三 学 年		1 生徒の進路希望実現を目指し、十分な支援体制を整え指導に当たる。								
	59	(1) 最高学年としての自覚のもと、自律的な生活ができるようにする。	63.3	12.3	24.5	90.9	9.1	0.0	81.8	①
	60	(2) 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな進路指導・学習指導を行う。	69.4	10.2	20.4	90.9	9.1	0.0	81.8	①
	61	(3) 部活動及び学習を通して切磋琢磨することのできる学年集団を構築する。	63.3	8.2	28.6	90.8	9.1	0.0	81.8	①
	62	(4) 保護者との連携を密にし、保護者・学年一体となった指導を推進する。	57.1	10.2	32.7	90.9	9.1	0.0	81.8	①
<p>1 生徒の進路実現に向け、二者面談・三者面談を多く取り入れた。また、学年内・教科内での連携を密にすることで、生徒の希望通りの進路実現につなげることができた。 (1) 生徒自身最高学年としての自覚を持って積極的に学校生活に取り組み、自律的な生活を送った。 (2) 生徒一人ひとりに応じた進路指導・学習指導を行うことができた。 (3) 部活動等においては、引退するまで積極的に活動し、やり遂げた生徒が多かった。引退後の切り替えもおおむね良好だった。 (4) 保護者との連携については、すべての保護者と三者面談等を行ったり、学年だよりを10号まで発行したりして生徒の実態を知ってもらうことで、学校への関心を高めた。</p>										

国語科	1	目的や場面に応じて的確に話す能力を高める。	51.0	8.1	40.8	85.7	14.3	0.0	71.4	①
	64	2 自分の考えを的確に書き表す能力を高める。	51.0	6.1	42.9	100.0	0.0	0.0	71.4	①
	65	3 さまざまな文章を読み、内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しむ態度を育てる。	48.9	8.2	42.9	85.7	14.3	0.0	57.1	①
	66	4 「話す・聞く」「書く」「読む」ことを通して、言語を理解し大切にすることを育てる。	55.1	4.1	40.8	100.0	0.0	0.0	57.1	①
各学年の授業中の対話活動や3学年国語表現での執筆・面接対策など、進路実現や生涯にわたる国語力の育成に、できることには精一杯取り組んだ。個に応じた指導をしたかったが、教育課程の複雑さや人的・時間的余裕のなさから難しさを感じた。3に関しては、新課程で文学作品を扱う機会が減る中、今後もあらゆる場面を通して読書に親しむ態度を育てていきたい。会津方部国語教育研究会の事務局を担当したことによる複数の研修会や授業公開・参観など、指導や評価の改善につながる機会も多かった。今後を生かしたい。										
地歴・公民科	67	1 資料読み取りや対話的な授業を通して、学ぶ意欲や、自ら考察しまとめる力を育てる。	55.1	6.1	38.8	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	68	2 教材研究や授業研究を通して、基礎学力を伸ばす指導力を高める。	51.0	4.0	44.9	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	69	3 補習や個別指導の充実を図り、受験に対応できる能力を育てる。	53.1	6.1	40.8	100.0	0.0	0.0	100.0	②
1. 生徒に対してICTも用いながら様々な資料を提示し、発問を通じてスモールステップでそれらの資料を読み取り、考えを表現できるような授業を各科目で展開できた。 2. 教員各自が様々な機会をとらえ研修に励み指導力を高めた。特に研究授業の実施やその参観・検討会を通じて自己の指導を振り返ることができた。 3. 生徒の様々な進路希望に応じた丁寧な指導をすることができた。										
数学科	70	1 学力向上のための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	53.1	6.1	40.8	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	71	2 数学的な表現・処理の有用性を認識させ、数学的な思考力・判断力・表現力を育成する。	44.9	6.1	49.0	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	72	3 教員としての資質向上のため研鑽に励む。	46.9	4.1	49.0	100.0	0.0	0.0	100.0	②
生徒同士の学び合いの時間を所要所で取り入れるよう努めている。教員が講義形式で説明する時間は減ることになるが、発展的な内容を長期休業中の補習に回すことにより、基礎的・基本的な内容を説明したり演習をさせたりする時間は確保している。研修等については、高教研や公開授業に参加し、その内容を数学科全体で共有することで、授業と学習指導の改善に繋がられるように努めている。今後もこの取り組みを継続していきたい。										
理科	73	1 観察・実験を通して自然現象に対して興味・関心を高める。	51.0	6.1	42.9	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	74	2 校内研修等でわかりやすい授業の工夫を行い、基礎学力の向上を図る。	46.9	6.1	46.9	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	75	3 生徒が自ら考え、問題解決を行うことができる能力の育成を図る。	51.0	4.1	44.9	100.0	0.0	0.0	100.0	①
適宜観察や実験を取り入れながら、生徒の興味関心を高める努力をしてきた。教科書進度の関係から割愛せざるを得ない実験等もある中では、グループワーク等の生徒活動については実施しづらかった。 ICT活用の参観授業や、教員個人間での情報のやり取りを行いつつ、授業の質の向上に努めた。 授業内の発問の工夫をし、考えさせる授業展開を心がけている。										
保健体育科	76	1 選択授業やKITAKATA WALK、小文化祭における体育行事とおして、自主的・自発的に運動する楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、生涯にわたりスポーツを主体的に実践していく能力を育成する。	55.1	4.1	40.8	80.0	20.0	0.0	100.0	②
	77	2 保健学習をおとして、自らの発達段階に応じた健康課題への理解を深めるとともに、生涯にわたり健康的な生活を送ることができるよう、適切な意志決定・行動選択ができる能力を育成する。	46.9	4.1	49.0	80.0	20.0	0.0	100.0	②
1 選択授業では、生徒の希望に沿った取り組みが出来た。KITAKATA WALKでは生徒自らの限界に挑戦し、達成感や満足感を味わうことが出来た。小文化祭では、クラスが一丸となって取り組み「絆」が深まった。 2 季節の健康課題や感染症等を通じてICT活用により、生徒自らが健康の大切さに気付くような取り組みを行った。										
芸術科		[音楽]								
	78	1 表現及び鑑賞活動を通して、音楽の諸能力を伸ばし、芸術を愛好する心情を育てる。	44.9	4.1	51.0	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	79	2 日本の伝統音楽及び世界の諸民族の音楽への興味関心を高める。	36.7	6.1	57.1	100.0	0.0	0.0	100.0	②
		[美術]								
	80	1 美術の制作・鑑賞を通して、芸術文化を尊重する態度を育てる。	40.8	8.1	51.0	100.0	0.0	0.0	100.0	②
81	2 多様なメディアを利用し、日本及び諸外国の美術文化に関心をもたせる。	38.8	4.1	57.1	100.0	0.0	0.0	100.0	②	
(美) Googleclassroomでの課題のやり取りや、デザインソフトでの作品制作、GoogleJamboardを使った作品鑑賞という一連の流れでICTを授業に効果的に取り入れることが出来た。習熟度を考慮し、丁寧に指導していきたい。 (音) ボディパーカッションでのグループ発表では独創性のある創作表現が多く見られ、音楽表現の向上には一定の成果が見られた。もう少し効果的なICTの活用方法について一層考えていきたい。										

英語科	82	1 基礎の定着を図り、進路希望に応じたより実践的な学力を育成する。	51.0	10.2	38.8	55.5	44.4	0.0	88.9	②
	83	2 コミュニケーションを重視した授業の充実と活性化を図る。	53.1	10.2	36.7	55.5	44.4	0.0	88.9	②
	84	3 教材研究の深化を図る。	51.0	6.1	42.9	77.7	22.2	0.0	88.9	①
	Google formsで演習問題を実施するなど、ICT機器を効果的に活用して充実した学習を行うことができた。今後も効果的な授業展開を研究していきたい。ALTとのインタビューによるパフォーマンステストや、授業時にグループ活動を行うことでinteractiveな授業を実践し、コミュニケーションを重視した活動ができた。ただし学年や科目によっては演習が中心となるものもあった。習熟度別クラスの特長を生かし、個に応じた指導をした。発展クラスでは英作文の個別添削指導を行ったり、基礎クラスでは反復学習による学力の定着を目指した。教材研究を深化することでクラスの実情に応じた授業が展開できるように努めた。辞書の使用の重要性など、学習に臨む姿勢から指導する必要もあった。									
家庭科	85	1 衣食住、消費生活、家族・家庭、保育、福祉に関する基本的な知識・技術を習得させる。	46.9	4.1	49.0	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	86	2 家庭や地域社会における課題を通して、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	42.9	4.0	53.1	100.0	0.0	0.0	100.0	②
	85生徒の実態調査を行い、各分野で身に付けて欲しい知識や技術を計画的に実践したり、人生設計に必要な資産形成や高齢者分野などで専門家を講師に招いて授業展開したことで生徒の振り返りからも「初めて考えた。」「深く知ることができた。」「などのコメントが多くあった。一方で、専門用語が多く十分に理解できない生徒もいたため、事後指導について工夫する必要がある。 86各分野において生徒にとって身近な課題や今後必要となってくる課題について取り上げ、主体的に調べ改善策について考えることができた。課題としては、時間配分やタブレットの準備ができない生徒への対応、調査したりまとめた内容を記録しない生徒への対応などがあげられる。これらの改善ができるように授業を見直したい。									
商業科	87	1 ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技術を取得させる。	51.1	4.1	44.9	100.0	0.0	0.0	66.7	①
	88	2 情報処理能力・技術、情報セキュリティや情報モラルに関する知識を身につけさせる。	51.0	4.1	44.9	100.0	0.0	0.0	66.7	①
	89	3 生徒一人ひとりの進路に即した資格取得の実現を図る。	53.1	6.1	40.8	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	87：ビジネスにおける基礎的・基本的な知識・技術だけでなく実践的な課題を示し、実習に取り組んだ。実社会の事例を紹介しながらの授業は生徒の興味・関心を惹くことができ、教育的効果があった。 88：情報セキュリティに関しては、模擬会社を立ち上げセキュリティ事故を想定した実習に取り組んだ。普段の授業においてもクラスルームで提出をする際の誤送信など、インシデント管理を意識した授業実践をした。89：授業で目標とする検定試験だけでなく、高度資格に挑戦する生徒へは習熟度別の指導をした。ビジネス計算実務検定試験やビジネス文書実務検定試験では1級合格者を出すことができた。									
情報科	90	1 自ら課題を見つけ、情報を主体的に収集、判断、処理し、問題解決をする能力を身につけさせる。	49.0	4.0	46.9	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	91	2 情報を適切に扱い、自らの情報活用を評価し改善できるようにする。	46.9	6.1	46.9	100.0	0.0	0.0	100.0	①
	90：既習内容の確認フォーム、学習用サイトを開設して、生徒がいつでも主体的に学習に取り組む環境を整えた。学習用サイトを活用する生徒も多く、学習教材として効果的であった。91：表計算ソフトの学習では、与えられたデータから適切なグラフを作成し、分析・評価する実習を取り入れた。									